

科目名	音楽通論	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 音楽を理論的に解釈し、演奏に活かすことができる力を養うために、音楽を学ぶ上での基礎となる知識を習得する。 〔授業全体の内容の概要〕 Ⅰ期においては楽典を学び、楽譜を正しく読むための基礎知識を身に付ける。Ⅱ期においては楽式アナリゼを学ぶことにより、音楽の仕組みや成り立ちについて理解する。			
達成目標	〔到達目標〕 楽譜に書かれていることを理論的に解釈し、演奏に活かすことのできる基本的な力を身につける。 〔履修カルテの評価項目〕 ①音程、音階、調の相互関係などを正しく理解しているか。 ②移調、転調、調の判定など理解しているか。 ③楽曲の構造を正しく理解しているか。			
受講資格	音楽科 1 年	成績評価 方法	試験 80% 平常点 20%	
教科書	『楽典』音楽之友社。『和声と楽式のアナリゼ』島岡譲著 音楽之友社。			
参考書	授業内で案内する。			
学生への要望	音楽を学ぶ上での基礎であり、理解しておかなければならない分野なので、積極的に授業に取り組んで欲しい。			
オフィスタイム	水曜日のⅤ限、金曜日のⅤ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：授業の箇所を前もって教科書等で学習しておくこと（1時間） 復習：授業の内容を振り返り、課題に取り組むなどして、より理解を深めておくこと。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	導入 音、純正律と十二平均律	音楽通論に対する説明、授業の進め方、評価方法の説明。 音の種類や純正律や平均律について学ぶ。
2	譜表と音名	五線、音部記号、譜表、音名、変化記号について
3	音符と休符	音符、休符の種類と長さ、連符、タイについて
4	リズムと拍子 I	リズム、拍と拍子、拍子の表記
5	リズムと拍子 II	強起と弱起、拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション
6	音程	度数、複音程、音程の転回
7	音階 I	長音階、短音階、調
8	音階 II	調の相互関係、移調と転調
9	音階 III	調判定
10	音階 IV	調判定の解答法 I、教会旋法、全音音階
11	音階 V	調判定の解答法 II、練習問題
12	コードネーム I	コードネームの種類
13	コードネーム II	コードの機能と進行
14	コードネーム III	コード進行の理解と、簡単な伴奏付
15	コードネーム IV と音楽理論 の総括	コード進行の理解と簡単な伴奏付、音楽理論のまとめと確認
16	和声分析の方法について	和音の知識を活用し、実際の楽曲で分析する。アナリゼの基本となる知識を学ぶ。
17	非和声音の種類について	旋律の中で、和音構成から外れている非和声音について学ぶ。
18	カデンツの型について	3 種類のカデンツの型を学び、実際の楽曲で確認する。
19	2 部形式	単純な 2 部形式について実際の楽曲を用いて学ぶ。
20	3 部形式	3 部形式について、実際の楽曲を用いて学ぶ。
21	転調について	簡単な楽曲を用い、調判定や和声分析を通して転調を理解する。
22	複合 3 部形式	実際の楽曲を用い、複合 3 部形式について学ぶ。
23	ソナタ形式 I	ソナチネを用いて、ソナタ形式について学ぶ。
24	ソナタ形式 II	前回の授業を継続し、古典派のソナタも分析し理解を深める。
25	変奏曲	変奏曲形式について、実際の楽曲を用いて理解する。
26	バッハ：インベンションの 分析 I	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
27	バッハ：インベンションの 分析 II	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
28	バッハ：インベンションの 分析 III	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリゼの基本となる知識について学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	バッハ：インベンションの分析Ⅳ	インベンションを用いて、主要動機、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小等アナリーゼの基本となる知識について学ぶ。
30	アナリーゼについてのまとめ	和音や非和声音、形式について復習・確認をし、アナリーゼの仕方、考え方などの理解を深める。

平成30年度

科目名	和声学Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 機能と和声の基礎を習得します。カデンツの仕組みや運声についての基本を学びます。 「授業の内容の概要」 属9の和音と簡単な転調を理解するまでが目標です。音楽理解の基礎となる分野なので初歩から丁寧に学びます。			
達成目標	「授業修了時の到達度」 更に進んだ内容については和声学Ⅱ、作曲法等で補填しますが、四声体の課題がスムーズに解けるようにします。 【履修カルテの評価項目】 ①各種和音や調についての理解が来ている。 ②カデンツについて理解している。 ③和声進行や配置についての理解が来ている。			
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	試験80%、平常点20%	
教科書	「学生のための和声の要点」サーベル社			
参考書	なし			
学生への要望	すべての音楽の基礎となる科目であり予習、復習が重要です。			
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後			
自学自習	事前学習：教科書を読んでわからない所を把握しておく事。（1時間） 事後学習：和声課題の実施を進める事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	和音①	和音、3和音、3和音と音階、7の和音、基本形と転回形、和音記号の表記など和声学の基礎となる用語や和音形態について説明する。
2	和音②	和音、3和音、3和音と音階、7の和音、基本形と転回形、和音記号の表記など和声学の基礎となる用語や和音形態について説明する。
3	四声体の配置①	各声部の名称、各声部の音域、各声部間における配置の規則、四声体への配置、3和音基本形及び第2転回形の配置、3和音第1転回形の配置、7の和音の配置について学ぶ。
4	四声体の配置②	各声部の名称、各声部の音域、各声部間における配置の規則、四声体への配置、3和音基本形及び第2転回形の配置、3和音第1転回形の配置、7の和音の配置について学ぶ。
5	和音機能①	T（トニック）機能、D（ドミナント）機能、和音機能による和声進行の規定。D2からD6までの働き、仕組みについて学習する。
6	和音機能②	T（トニック）機能、D（ドミナント）機能、和音機能による和声進行の規定。D2からD6までの働き、仕組みについて学習する。
7	D－Tの連結	連結の規定、声部進行の規定、V－Iへの連結、V－I（1転）の連結、属7－I（転回形含む）の連結。
8	T－D－Tの連結	I－V（2転）－I（1転）I（1転）－V（2転）－Iの連結。2転の使い方について学ぶ。
9	T－Tの連結	I－I（1転）およびI（1転）－Iの連結。
10	TとD諸和音との連結①	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
11	TとD諸和音との連結②	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
12	TとD諸和音との連結③	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
13	Ⅱ（1転）（D2）の和音	Ⅱ（1転）の配置、Ⅱ（1転）－V（属7含む）の連結。
14	Ⅱ（1転）（D2）の和音	Ⅱ（1転）の配置、Ⅱ（1転）－V（属7含む）の連結。
15	I（2転）－V（属7含む）の連結①	I（2転）－V（属7含む）を用いた全終止、I（2転）－Vを用いた半終止、D2を含むバス課題の実施方法、D2を含むソプラノ課題の実施方法。
16	I（2転）－V（属7含む）の連結②	I（2転）－V（属7含む）を用いた全終止、I（2転）－Vを用いた半終止、D2を含むバス課題の実施方法、D2を含むソプラノ課題の実施方法。
17	属7（2転）－I（1転含む）の連結	属7（2転）－Iの連結、属7（2転）－I（1転）の連結。
18	Ⅵ（T）の和音	V（属7含む）－Ⅵの連結、I（1転含む）－Ⅵの連結。
19	Ⅳ（1転含む）（D2）の和音	Ⅱ（1転）の代用、Ⅳ（1転）、終止以外の箇所のⅣ（1転含む）、D2の運用。
20	Ⅳの和音	S（サブドミナント）機能、S機能における和音進行の限定、SとしてのⅣ、T－S－Tの連結、和声進行における機能の連結規則のまとめ。
21	借用和音①	副次調、借用和音、副Vの和音、ドッペルドミナント、D2諸和音－ドッペルドミナント、D2諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副Vの和音、V－副V諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
22	借用和音②	副次調、借用和音、副Vの和音、ドッペルドミナント、D2諸和音－ドッペルドミナント、D2諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副Vの和音、V－副V諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	借用和音③	副次調、借用和音、副Ⅴの和音、ドッペルドミナント、ⅡⅡ諸和音ードッペルドミナント、ⅡⅡ諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副Ⅴの和音、Ⅴー副Ⅴ諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
24	根音省略形	根音省略形、属Ⅶの根音省略形、ドッペルドミナントの根音省略形。
25	属Ⅸ、副属Ⅸの和音①	属Ⅸの和音、属Ⅸの和音の準固有和音、ドッペルドミナントのⅨ、ドッペルドミナントのⅨの準固有和音、ドッペルドミナントの下方変位、副属Ⅸの和音。
26	属Ⅸ、副属Ⅸの和音②	属Ⅸの和音、属Ⅸの和音の準固有和音、ドッペルドミナントのⅨ、ドッペルドミナントのⅨの準固有和音、ドッペルドミナントの下方変位、副属Ⅸの和音。
27	ⅡのⅦの和音①	ⅡのⅦの和音と配置、Ⅱ諸和音への連結、先行和音からⅡのⅦの和音への連結、ソプラノ課題におけるⅡのⅦとⅡ（Ⅰ転）の使い分け、ⅡのⅦからドッペルドミナント諸和音への連結、ⅡのⅦを含む定型。
28	ⅡのⅦの和音②	ⅡのⅦの和音と配置、Ⅱ諸和音への連結、先行和音からⅡのⅦの和音への連結、ソプラノ課題におけるⅡのⅦとⅡ（Ⅰ転）の使い分け、ⅡのⅦからドッペルドミナント諸和音への連結、ⅡのⅦを含む定型。
29	転位音①	和声音と非和声音、定位と変位、転位音の種類、転位音を含むときの配置上の規則、Ⅰ度上の属Ⅶの和音、転位音から転位音への進行、定位音による修飾、同種和音の連結。
30	転位音②	和声音と非和声音、定位と変位、転位音の種類、転位音を含むときの配置上の規則、Ⅰ度上の属Ⅶの和音、転位音から転位音への進行、定位音による修飾、同種和音の連結。

平成30年度

科目名	和声学Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 和声学Ⅰで学んだ基礎をもとに和声学Ⅱでは対位法を中心に学習します。対位法は原語ではContra Punctus(Punctus Contra Punctus)の意味であり、広義には旋律対旋律という意味です。このように、旋律対旋律の形成は音楽の本質として現代まで伝承され、現代では単に作曲技法に留まらず多声部音楽を理解する上で欠くことのできない学習です。 「授業の内容の概要」 はじめは和声学の不足部分を補い、旋律対旋律の初歩の書き方から学びます。			
達成目標	「授業修了時の達成度」 二声対位法の仕組みを理解し、自由な発想で書ける事を目標とします。 【履修カルテの評価項目】 ①定旋律に対して適切な対旋律が書ける。 ②1対自由まで理解している。 ③カノンやフーガの基礎を理解している。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	試験80％、平常点20％	
教科書	「対位法」音楽之友社			
参考書	なし			
学生への要望	音楽の専門教科で特に難解であるため、復習が大切であり、実習が大切です。			
オフィスタイム	水曜日授業開始前、授業終了後			
自学自習	事前学習：前回の課題を復習しておく事。（1時間） 事後学習：前回の復習と共に、次回の予習をして置く事。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー		
回	項目	授業内容
1	対位法の定義	対位法とは定旋律と規範的対旋律の協唱である事を学習する。
2	定旋律と対旋律①	対位法と音楽の成り立ちについて。 定旋律と対旋律について。
3	定旋律と対旋律②	定旋律の性格とその形成について。
4	定旋律と対旋律③	対旋律の形成と和声的関連性について。 非和声音と旋律動向について。
5	定旋律と対旋律④	定旋律と対旋律との和声的関連性について。
6	定旋律と対旋律⑤	対旋律を創るにあたって留意点について。 アクセント旋律動向について。
7	定旋律と対旋律⑥	和声的動向、結尾等の形成について。
8	二分音符対位法①	二声対位法を実際に創り、定旋律と対旋律の旋律動向を学習する。
9	二分音符対位法②	二分音符対位法を実習和声で学習した四声体和声連結を参考にして。
10	二分音符対位法③	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。
11	二分音符対位法④	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。
12	四分音符対位法①	旋律動向において非和声音の使い方を理解し、対旋律の音楽的動向と和声との関係について。
13	四分音符対位法②	四分音符対位法の実習。
14	四分音符対位法③	四分音符対位法の実習和声的動向において音楽的禁則を学習する。
15	移勢対位法	移勢対位法についての説明と分析。

平成30年度

科目名	音楽史	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 音楽と時代的背景の係わりを理解し、歴史の推移に伴う音楽の変化を様式の変化として捉える。 〔授業全体の内容の概要〕 古代音楽から、２０世紀の音楽をそれぞれの時代の流れに沿って学習する。また、民族音楽について学習する。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 知識としての音楽史を、実際の演奏活動等に生かすことができる。 【履修カルテ評価項目】 １．音楽の変遷の大きな流れを把握できたか。 ２．歴史の推移に伴う音楽の変化を様式の変化として理解できたか。 ３．音楽と時代的背景の係りを理解できたか。			
受講資格	音楽科 1 年	成績評価 方法	平常点20% レポート80%	
教科書	『新音楽史』 H.M. ミラー著 東海大学出版			
参考書	『グラウト 西洋音楽史』 上下 音楽之友社			
学生への要望	知識としての音楽史にとどまらず、実際の音楽活動に役立てたい。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 １２：００～１２：５０			
自学自習	予習：授業の内容に対し、教科書をあらかじめ読んでおくこと。（１時間） 復習：授業の内容をふまえて、さらにその時代の楽曲等を調べ、視聴すること。（１時間）			

ー授業内容とスケジュールー		
回	項目	授業内容
1	古代文明の音楽①	人間生活と一体になっていた音楽を理解する。
2	古代ギリシアの音楽②	古代オリエントからの影響で形成した音楽を、さらに、初期キリスト教音楽に受け渡すという視点で考える。
3	古代ローマ時代の音楽	古代ローマ時代に各地で展開された初期キリスト教音楽が、グレゴリオ聖歌に集束されていく事情を勉強する
4	中世の音楽①	多声音楽の出現と発展を、キリスト教音楽の中で見ていく。
5	中世の音楽②	多声音楽の出現と発展を、キリスト教音楽の中で見ていく。
6	ルネサンス音楽①	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
7	ルネサンス音楽②	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
8	ルネサンス音楽③	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
9	バロック音楽①	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
10	バロック音楽②	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
11	バロック音楽③	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
12	バロック音楽④	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
13	バロック音楽⑤	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
14	古典派音楽①	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
15	古典派音楽②	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
16	古典派音楽③	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
17	古典派音楽④	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
18	古典派音楽⑤	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
19	ロマン派音楽①	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
20	ロマン派音楽②	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
21	ロマン派音楽③	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
22	ロマン派音楽④	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
23	ロマン派音楽⑤	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
24	ロマン派音楽⑥	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
25	２０世紀の音楽①	２０世紀の音楽について勉強する。
26	２０世紀の音楽②	２０世紀の音楽について勉強する。
27	20世紀の音楽③	２０世紀の音楽について勉強する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	日本音楽と世界の民族音楽	日本音楽と世界の民族音楽について勉強する。
29	日本音楽と世界の民族音楽	日本音楽と世界の民族音楽について勉強する。
30	まとめと確認	音楽史全体のまとめと確認

平成30年度

科目名	作曲法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 楽式アナリゼや和声学、対位法の学習を踏まえて作品制作に取り組みます。この事は実際の作品理解に大きく役立つものです。 「授業全体の内容の概要」 楽器論、編曲法についても学び、大きな視点から演奏の手助けとなるような音楽経験をします。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 作品の制作過程を知る事により、演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 【履修カルテの評価項目】 ①和声学や対位法についての基礎知識がある。 ②美しいメロディーを作ることができる。 ③楽器や編曲法について理解している。			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	作品評価80%、平常点20%	
教科書	「学生のための和声の要点」 サーベル社			
参考書	対位法、和声学			
学生への要望	作曲を専門にする事ではなく、音楽理解において必要な事柄なので積極的に取り組んで下さい。			
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後			
自学自習	事前学習：制作中の作品をできる範囲で進めておく事。（1時間） 事後学習：注意点を復習し、手直しする事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	特殊和音 1 ドッペルドミナント	和声学（1年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1としてドッペルドミナントの説明。
2	特殊和音 2 副Ⅴ度	副Ⅴ度の考え方と用法。実際の例で説明。簡単な旋律を作り、副Ⅴ度を使ってみる。基本的にドッペルドミナントと副Ⅴ度の使用について理解をする。 ここでは1年次の全調カデンツが役に立つはずである。
3	特殊和音 3 準固有和音	準固有和音と借用和音について例を挙げて説明。響き、用法などを会得する。楽曲の様式感とも関わることなので効果的に活用することを学ぶ。 またここでは終始法、カデンツの原理について再度学ぶ。
4	特殊和音 4 ナポリのⅡ ドリアのⅣ	ナポリのⅡ、ドリアのⅣについて説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。
5	特殊和音 5 フックスのⅤ ラモーの五六	フックスのⅤ、ラモーの五六について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。
6	特殊和音のまとめ 1	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練をする。簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。
7	特殊和音のまとめ 2	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練の2。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。
8	特殊和音のまとめ 3	前2授業の作品を完成させる。提出、評価。
9	変奏 1	変奏は作曲学上最も大事な技術の一つである。変奏の実際について様々な例から学ぶ。 実技を通して数多くの変奏を試みる。
10	変奏 2	変奏の実際についての続き。 数多くの変奏を試みることによってより理解を深める。
11	変奏曲 1	簡単な変奏曲の作曲。テーマは自作でも既成の楽曲でも良いが、無理のない自然な変奏が出来るよう心がける。
12	変奏曲 2	前週の作業の続きを行う。
13	変奏曲 3	前週の作業の続きを行う。
14	変奏曲 4	変奏曲の完成。提出、評価。
15	管弦楽法	管弦楽法への導入。 合奏の諸形態、響きについての説明などを行いⅣ期に行う管弦楽法への導入とする。
16	管弦楽法、楽器論①	Ⅳ期は主に管弦楽法を学び、楽曲の編曲を行う。 楽器論①としてフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットなど木管楽器の特性について学ぶ。
17	管弦楽法、楽器論②	楽器論②としてホルン、トランペット、トロンボーン、チューバなど金管楽器の特性について学ぶ。 素材、奏法など。
18	管弦楽法、楽器論③	楽器論③としてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスなど弦楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。
19	管弦楽法、楽器論④	ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、その他打楽器は種類が多い。その中から主にオーケストラや吹奏楽で用いられる打楽器について学ぶ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
20	管弦楽法、楽器論⑤	特殊楽器や打楽器などについて補足説明。
21	管弦楽法	各楽器の組み合わせ方や管楽器と弦楽器の音量の違い、バランスなど実際の管弦楽作品を参考にしながら研究する。
22	管弦楽法、編曲①	ソナチネなどの簡単なピアノ曲を木管アンサンブルやその他の室内楽作品としてアレンジする。学生間でアンサンブルできる編成が望ましい。
23	管弦楽法、編曲②	授業の中で実際に編曲する。楽器の使い方、技術面の特性など編曲しながら考える。一人ひとりの疑問に答え、添削も行う。 以下3回にわたりこの作業を続ける。作業①
24	編曲②	前週の続き作業② 質問を受けながら作ってゆく。
25	編曲③	前週の続き作業③ 質問を受けながら作ってゆく。
26	編曲④	編曲の仕上げを行い、パート譜の作成をする。
27	編曲のまとめ	数名の作品を選び、学生同士で演奏し、それぞれの作品について聴きあい、批評しあう。 提出、評価。
28	歌曲①	歌曲は無駄がなく、もっとも技術を要する。言葉を伴うことから詩句の解釈や日本語のイントネーションを吟味し、必然性のあるメロディを作成することが要求される。
29	歌曲②	それぞれ選んだ詩について歌曲を作成。これを前回同様2回にわたって行う。作業①
30	歌曲③	作業②歌曲の仕上げ、清書して完成させる。提出、評価。

平成30年度

科目名	指揮法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	岡部 富士夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 指揮法は単に指揮の仕方を学ぶだけではなく表現力や楽曲の分析、音楽に対してどう向き合うかを学ぶものです。 「授業全体の内容の概要」 音楽を正しく理解し表現する力を習得します。合唱やオーケストラの指揮の実際を学びます。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 楽曲を分析し、正しく伝える技術を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①図形を正しく振る事ができる。 ②作品を正しく解釈することができる。 ③自分の意思を明確に伝えられる。			
受講資格	音楽科 2年	成績評価 方法	実技試験 80%、平常点 20%	
教科書	斉藤秀雄著「指揮法教程」音楽之友社			
参考書	なし			
学生への要望	オーケストラや合唱を指揮するということは作品をどれだけ知っているにかかかります。広い視野から音楽に向き合う姿勢が大事です。			
オフィスタイム	月曜日授業開始前、授業終了後			
自学自習	事前学習：あらかじめ練習する曲のスコアを読んでおく事。（1時間） 事後学習：授業の結果を踏まえて改善点を整理する事。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	指揮とは何か、指揮者の必要性とは何か、について学ぶ。
2	基礎訓練①	叩きは指揮の基本である。平均運動、加速、減速について練習する。
3	基礎訓練②	叩きと各拍子について。 図形について。
4	ウェーバー・ヴァリエーション①	ウェーバーのヴァリエーションを教材として予備、平均運動の練習。
5	ウェーバー・ヴァリエーション②	曲中にあるフェルマータ、rit. やcrescendoの振り方についての練習、強弱やアインザッツについての練習。
6	あかるい日の歌Ⅱ	変拍子、8分の8、8分の7、8分の5などの振り方、分割、省略について。
7	ハイドン・アレグロ ①	ハイドンのアレグロを教材に打法の練習。
8	ハイドン・アレグロ②	裏拍の指示の仕方、テンポの速い曲への対応の仕方。
9	ベートーヴェン交響曲第1番 ①	ベートーヴェンの交響曲第1番の第1楽章序奏の部分振る。 スコアの見方について学ぶ。
10	ベートーヴェン交響曲第1番 ②	分割の仕方、楽器の特性、音色の変化など。
11	ベートーヴェン交響曲第1番 ③	休符の処理、tuttiのアインザッツ。 各パートへのアインザッツ。
12	ベートーヴェン交響曲第1番④	音源を聴きイメージを作る。 弓、プレスと棒の関係。
13	ベートーヴェン交響曲第1番⑤	全体を振る。 批評しあう。
14	ベートーヴェン交響曲第1番⑥	全体を振る。 批評しあう。
15	ベートーヴェン交響曲第1番 ⑦	指揮法のまとめ。

平成30年度

科目名		声乐Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員		磯部 哲夫			
開講期		通年			
授業概要		【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標		【授業修了時の到達課題（到達目標）】 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
受講資格		音楽科1年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書		イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書		特になし			
学生への要望		1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム		月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習		予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	声楽に対しての心構え、練習方法、レッスンの進め方、評価方法について説明
2	発声法・1	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程、跳躍音程による発声
3	発声法・2	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程、跳躍音程による発声 ④歌曲のフレージング処理法について解説する
4	イタリア古典歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
5	イタリア古典歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
6	イタリア古典歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
7	イタリア古典歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
8	イタリア古典歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
9	イタリア古典歌曲・6	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
10	前期まとめと小テスト	イタリア古典歌曲集より選択した楽曲

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	イタリア古典歌曲・7	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
12	イタリア古典歌曲・8	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
13	イタリア古典歌曲・9	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
14	イタリア古典歌曲・10	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
15	イタリア古典歌曲・11	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する ④ステージマナーについて解説する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法について説明
17	ドイツ歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
18	ドイツ歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
19	ドイツ歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
20	ドイツ歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
21	ドイツ歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
22	日本歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
23	日本歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
24	日本歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
25	日本歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
26	後期試験曲・1	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
27	後期試験曲・2	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
28	後期試験曲・3	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
29	後期試験曲・4	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する
30	後期試験曲・5	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクショ ③試験曲の歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

科目名	声楽Ⅰ（副科）	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を習得。 ②原語発音・・・正確なイタリア語、ドイツ語の発音の習得 ③歌唱法・・・発声を活かし、自然な息の流れを意識したフレージングを身に付ける。 〔授業全体の内容の概要〕 ①歌唱の姿勢、腹式呼吸といった発声の基本を身に付け、それを活かした息の流れで楽曲をフレージングする歌唱を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 発声の基本を正確に身に付け、その発声を活かした歌唱法で歌唱することができるようにする。 ①基本姿勢、腹式呼吸を習得できたか。 ②正確な原語発音ができたか。 ③自然な息の流れで楽曲をフレージングできたか。			
受講資格	音楽科 1 年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書	コンコーネ 50 番 イタリア古典歌曲集 イタリア近代歌曲集 ドイツ歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	声楽Ⅰ（副科）では発声法と歌唱法の基本の習得を目標とする。レッスンの積み重ねが重要となるので、基本動作をしっかりと			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンに当たっての心構え、レッスンの進め方、ローテーション、評価方法についての説明
2	発声法・1	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程による発声
3	発声法・2	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程による発声 ④歌唱におけるフレージングについて解説する
4	コンコーネ 50 番・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
5	コンコーネ 50 番・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
6	コンコーネ 50 番・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
7	コンコーネ 50 番・4、イタリア古典歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅰ ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する ③イタリア語ディクシオン
8	コンコーネ 50 番・5、イタリア古典歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅱ ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する ③イタリア語ディクシオン ④イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
9	イタリア古典歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅲ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
10	イタリア古典歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅳ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	イタリア古典歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅴ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
12	イタリア古典歌曲・6	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅵ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
13	イタリア古典歌曲・7	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅶ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
14	イタリア古典歌曲・8	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅷ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
15	イタリア古典歌曲・9	①発声についての前期のまとめ ②イタリア語発音についての前期のまとめ ③イタリア古典歌曲の歌唱法についての前期のまとめ
16	後期ガイダンス	イタリア古典歌曲、イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲のレッスンの進め方、ローテーション、評価方法について
17	イタリア古典歌曲・1	①発声法・・・共鳴法について解説 ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲の楽曲研究と歌唱法の解説。
18	イタリア古典歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸と共鳴の流れについて解説Ⅰ ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲の楽曲研究と歌唱法の解説。
19	イタリア古典歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸と共鳴の流れについて解説Ⅱ ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説。
20	イタリア近代歌曲・1	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅰ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
21	イタリア近代歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅱ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
22	イタリア近代歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅲ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
23	イタリア近代歌曲・4	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅳ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
24	イタリア近代歌曲・5	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅴ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
25	ドイツ歌曲・1	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅵ ②ドイツ語の発音について ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
26	ドイツ歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅶ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
27	ドイツ歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅷ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
28	ドイツ歌曲・4	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅸ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
29	ドイツ歌曲・5	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅹ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
30	後期まとめ	①発声法についての後期のまとめ ②イタリア語、ドイツ語の発音についての後期のまとめ ③イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲についての楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ

平成30年度

科目名		声楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修	
担当教員		磯部 哲夫			
開講期		通年			
授業概要		【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標		【授業修了時の到達課題（到達目標）】 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。			
受講資格		音楽科 1 年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点	
教科書		イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書		特になし			
学生への要望		1 年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
オフィスタイム		月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習		予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

平成30年度

平成30年度			
科目名	声楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
担当教員	割谷 由美子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。		
受講資格	音楽科 1 年	成績評価 方法	平常点10点 実技試験90点
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集		
参考書	特になし		
学生への要望	1年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。		
オフィスタイム	月火 レッスン室No.1		
自学自習			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

平成30年度

科目名	声楽Ⅱ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 〔授業全体の内容の概要〕 ①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。			
達成目標	〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕 正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。 ①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	平常店10点 実技試験90点	
教科書	イタリア古典歌曲集Ⅰ、Ⅱ イタリア近代歌曲 ドイツ歌曲集 日本歌曲集			
参考書	特になし			
学生への要望	レッスンでの指摘を把握し、次回には改善が見られるように、日々の練習に励むこと。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明
2	日本歌曲・1	①発声法・・・1年次の復習 ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
3	日本歌曲・2	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
4	日本歌曲・3	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
5	日本歌曲・4	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
6	日本歌曲・5	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
7	日本歌曲・6	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅲ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
8	日本歌曲・7	①発声・・・共鳴法と頭声の習得Ⅳ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
9	日本歌曲・8	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅴ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	日本歌曲・9	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅵ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
11	日本歌曲・10	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅶ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
12	日本歌曲・11	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
13	日本歌曲・12	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅸ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
14	日本歌曲・13	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅹ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
15	前期まとめ	①発声法のまとめ ②日本語発音のまとめ ③日本歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法についての説明
17	各原語による歌曲・1	①発声法の総合的な習得Ⅰ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
18	各原語による歌曲・2	①発声法の総合的な習得Ⅱ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
19	各原語による歌曲・3	①発声法の総合的な習得Ⅲ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
20	各原語による歌曲・4	①発声法の総合的な習得Ⅳ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
21	各原語による歌曲・5	①発声法の総合的な習得Ⅴ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
22	各原語による歌曲・6	①発声法の総合的な習得Ⅵ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
23	各原語による歌曲・7	①発声法の総合的な習得Ⅶ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
24	各原語による歌曲・8	①発声法の総合的な習得Ⅷ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
25	各原語による歌曲・9	①発声法の総合的な習得Ⅸ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
26	各原語による歌曲・10	①発声法の総合的な習得Ⅹ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
27	各原語による歌曲・11	①発声法の総合的な習得Ⅺ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
28	各原語による歌曲・12	①発声法の総合的な習得Ⅻ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
29	各原語による歌曲・13	①発声法の総合的な習得のまとめ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	後期まとめ	①発声法のまとめ ②各原語の発音についてのまとめ ③各原語による歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ

科目名	ピアノⅠ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②バッハの作品を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。			
受講資格	短大音楽科1年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％	
教科書	ツェルニー、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を進度に応じてその都度指示。			
参考書	特になし。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12：00～12：50、水曜日V限、金曜日V限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：授業に向けて課題を練習しておく。（2時間） 事後学習：授業での反省を踏まえて、確認練習をする。（2時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタの学習。正確な読譜力を身につける。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタを楽式的に分析し、楽曲表現の学習に役立てる。
11	基礎技術の学習まとめと確認	練習曲を演奏し、これまでの学習の成果を確認する。 また、その反省を活かして今後の学習方法についての確認を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小曲の学習。正確な読譜力を身につける。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 後期の試験に備えて、ベートーヴェンのソナタの正確な読譜。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ベートーヴェンのソナタの楽曲分析、様式などを学習する。またモーツァルトやハイドンのソナタとの違いを学習する。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅠ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	深谷 悠理絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②バッハの作品を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。			
受講資格	短大音楽科1年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％	
教科書	ツェルニー、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を進度に応じてその都度指示。			
参考書	特になし。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	火・水・木曜日 IV時限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：授業に向けて課題を練習しておく。（2時間） 事後学習：授業での反省を踏まえて、確認練習をする。（2時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタの学習。正確な読譜力を身につける。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタを楽式的に分析し、楽曲表現の学習に役立てる。
11	基礎技術の学習まとめと確認	練習曲を演奏し、これまでの学習の成果を確認する。 また、その反省を活かして今後の学習方法についての確認を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小曲の学習。正確な読譜力を身につける。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 後期の試験に備えて、ベートーヴェンのソナタの正確な読譜。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ベートーヴェンのソナタの楽曲分析、様式などを学習する。またモーツァルトやハイドンのソナタとの違いを学習する。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅠ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派等の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②多声部音楽を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③古典派の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。			
受講資格	短大音楽科1年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	ツェルニー、バッハ、古典派等の作品を進度に応じてその都度指示。			
参考書	特になし。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12：00～12：50、水曜日V限、金曜日V限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：授業に向けて課題の練習をする。（1時間） 事後学習：授業の反省とその確認の練習をする。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	レッスンの進め方、1年間の学習方法や心構えについて説明。 次回の授業の課題の確認。
2	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
4	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
17	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
21	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
22	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。試験に向けて、正確な読譜と表現について考える。
23	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
24	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
25	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
26	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
27	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
28	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
29	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
30	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅠ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修	
担当教員	深谷 悠理絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派等の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②多声部音楽を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③古典派の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。			
受講資格	短大音楽科 1 年	成績評価 方法	実技試験 9 0 %、平常点 1 0 %	
教科書	ツェルニー、バッハ、古典派等の作品を進度に応じてその都度指示。			
参考書	特になし。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	火・水・木曜日 IV時限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：授業に向けて課題の練習をする。（1時間） 事後学習：授業の反省とその確認の練習をする。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	レッスンの進め方、1年間の学習方法や心構えについて説明。 次回の授業の課題の確認。
2	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
4	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
17	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
21	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
22	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。試験に向けて、正確な読譜と表現について考える。
23	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
24	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
25	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
26	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
27	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
28	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
29	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
30	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向け最終的な仕上げをする。

平成30年度

科目名	ピアノⅡ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12：00～12：50、水曜日Ⅴ限、金曜日Ⅴ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：当日の課題の確認と練習をしておく。（2時間） 事後学習：授業から学習したことの確認と練習をする。（2時間）			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 卒業研究の曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

平成30年度

科目名	ピアノⅡ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修	
担当教員	深谷 悠理絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：当日の課題の確認と練習をしておく。（2時間） 事後学習：授業から学習したことの確認と練習をする。（2時間）			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 卒業研究の曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

平成30年度

科目名	ピアノⅡ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏テクニック等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派や近現代等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日 12：00～12：50、水曜日Ⅴ限、金曜日Ⅴ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題に応じた練習が必要である。（1時間） 事後学習：授業の内容の確認に伴う練習をする。（1時間）			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	演奏表現1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 試験曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。

科目名	ピアノⅡ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修	
担当教員	深谷 悠理絵			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏テクニック等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派や近現代等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%	
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
参考書	特になし			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
オフィスタイム	火・水・木 IV時限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題に応じた練習が必要である。（1時間） 事後学習：授業の内容の確認に伴う練習をする。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 試験曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。

平成30年度

科目名	管楽Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点のある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。			
受講資格	短大音楽科1年生	成績評価 方法	実技試験90％ 平常点10％	
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。			
参考書	『ソノリテについて』タファネルゴーベール 『32のエチュード』ローズ他			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			
自学自習	予習：スケール・エチュードを自分なりに解釈し、完成させてくること。（2時間） 復習：授業で出た問題点をできるだけ解決させること。（2時間）			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	基礎練習①	支えと音の方向性について
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置
4	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて②	低音域のポジション
6	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて③	高音域のポジション
7	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング
9	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係
10	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係
11	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑧	fの出し方
12	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑨	Pの出し方
13	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑫	前期のまとめ
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏及び評価

平成30年度

科目名	管楽Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	藤田 久実子		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 金管楽器の演奏に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる 〔授業全体の内容の概要〕 金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 演奏法に関わる基礎および、プロフェッショナルな音楽性と演奏技術を習得する。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 金管楽器の演奏に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる 〔授業全体の内容の概要〕 金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 演奏法に関わる基礎および、プロフェッショナルな音楽性と演奏技術を習得する。		
受講資格	音楽科1年生	成績評価 方法	①①出席及びレッスン受講態度(20点) ②期末実技試験 (80点)
教科書	J. Arban金管教本、 Kopprasch / 60のエチュード H. L. Clark / Technical Studies		
参考書	特になし		
学生への要望	資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週1回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。		
オフィスタイム	月曜日 授業終了後		
自学自習			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	実技レッスンの進め方や評価方法などを理解する。 レッスンを受講するにあたり必要となる教則本や日常練習の必要性を認識する。
2	呼 吸 法	腹式呼吸の構造と重要性を理解し、A. ジェイコブス氏の呼吸法を解説する。
3	マウスピースの練習	マウスピース練習の仕方を習得し、ウォーミングアップの必要性を理解する。
4	リップスラーⅠ	基礎的なリップスラー及び、金管楽器におけるリップスラーの必要性と重要性を理解する。
5	リップスラーⅡ	オクターヴ以上のリップスラーを習得し、より柔軟かつパテ難い口輪筋を育てる。
6	音 階 練 習 Ⅰ	以下の長音階の運指構造を理解し、楽器の基本構造を理解する。(B-dur, F-dur, Es-dur)
7	リップスラーⅢ	2オクターヴ・リップスラーの練習内容を理解・習得する。
8	音 階 練 習 Ⅱ	以下の長音階の運指構造を理解し、美しい響きを理解する。 (C-dur, As-dur, G-dur, Des-dur, D-dur, Ges-dur)
9	J. Arban 教本Ⅰ	当該教本より、No. 11～No. 50基礎的な響きと癖の無いタンギング奏法を理解する。
10	音 階 練 習 Ⅲ	以下の長音階の運指構造を理解し、美しいタンギングと響きを理解・習得する。 (H-dur, A-dur, Fis-dur, E-dur)
11	音階練習のまとめと応用	全ての12長音階を早いタンギングで演奏し、より安定したシラブルを習得する。
12	J. Arban教本Ⅱ	当該教本のシロペーションNo. 1～12で強弱表現の幅を広げ、正確な音程感を理解する
13	Kopprasch教本Ⅰ	当該教本を用いて、より音楽的な内容と技巧的な内容を習得する
14	H. L. Clark Technical StudiesⅠ	当該教本の練習方法解説と、日々の練習へ理解・導入する。
15	任意の小品曲	5～7分の小品を用いて、前授業内容の総合習得を確認する。
16	音 階 練 習 Ⅳ	以下の短音階の運指構造を理解し、美しい響きと安定感を習得する (g-moll, d-moll, c-moll, f-moll, a-moll, b-moll, e-moll, es-moll, h-moll)
17	J. Arban教本Ⅲ	当該教本内スラーとレガートにて、応用した高度なリップスラーの習得と技術向上をはかる。
18	J. Arban教本Ⅳ	当該教本内・音階にて技術と安定感を育成・習得する。
19	J. Arban教本Ⅴ	当該教本内・トリプルタンギングの構造と練習方法を解説し、理解・習得する。
20	Kopprasch教本Ⅱ	当該教本にてインターバルに対応できる高度な能力を習得する。
21	J. Arban教本Ⅵ	当該教本内ダブルタンギングの構造と練習方法を解説し、理解・習得する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	H. L. Clark Technical Studies II	当該教本No. 87~98にて、高度な技術・高音域の拡大と同時に、奏法の安定を養う。
23	J. Arban教本Ⅶ	当該教本内14の性格的練習曲を解説し、理解・習得する。
24	J. Arban教本Ⅷ	当該教本内12の幻想曲とアリアより任意の一曲を選択し、美しいテーマと高度な技術を応用した変奏曲を習得する。
25	フランス近代 小品	数多あるフランス近代作曲家の任意の小品を選曲し技術的および音楽性の向上を深め、習得する。
26	バロック音楽	テレマン、タルティーニなどの小品を用いてバロック奏法の解説をし、理解を深める。
27	現代音楽	武満徹、リゲティなどの楽曲を用いて、現代奏法の理解・習得する。
28	ドイツ古典	J. ハイドン（もしくはJ. フンメル）トランペット協奏曲の構成研究、および曲想の理解などを深め、体得する。
29	オーケストラ・スティ	数多あるオーケストラ曲内に存在する、難易度の高いパッセージへの練習アプローチと習得方法を解説、理解する。
30	実技試験準備	実技試験曲のピアノ伴奏合わせにおいて準備方法、音の色彩の引き出し方の提案、全体構成の方向性を習得する。

平成30年度

平成30年度			
科目名	管楽Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
担当教員	竹谷 陽二郎		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード・古典～現代の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。		
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード・古典～現代の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。		
受講資格	音楽科1年生	成績評価 方法	平常点10％ 試験90％
教科書	音及び基本奏法に関する教本を併用して使用する。		
参考書	特になし		
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。		
オフィスタイム	月曜日 音楽科No.1 研究室		
自学自習			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	基礎練習	支えと音の方向性について
2	基礎練習	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習	演奏時の舌の位置
4	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	低音域のポジション
6	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	高音域のポジション
7	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” のど” のチューニング
9	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” 頭声” と楽器の音の関係
10	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” 胸声” と楽器の音の関係
11	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	fの出し方
12	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	pの出し方
13	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	前期のまとめ
16	基礎練習 後期試験に向けて	” 弦楽器” に学ぶ意味
17	基礎練習 後期試験に向けて	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習 後期試験に向けて	弓の速度と息の速度
19	基礎練習 後期試験に向けて	弦楽器のヴィブラートに学ぶ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
20	基礎練習 後期試験に向けて	タンギングと弓使い
21	基礎練習 後期試験に向けて	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習 後期試験に向けて	フランス風toneについて
23	基礎練習 後期試験に向けて	ドイツ風toneについて
24	基礎練習 後期試験に向けて	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習 後期試験に向けて	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習 後期試験に向けて	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習 後期試験に向けて	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習 後期試験に向けて	暗譜の確認
29	基礎練習 後期試験に向けて	暗譜の確認
30	基礎練習 後期試験に向けて	演奏及び評価

平成30年度

科目名	管楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点がある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができているか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできているか。			
受講資格	短大音楽科2年生		成績評価 方法	実技試験 90％ 平常点 10％
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。			
参考書	『30のカプリス』カヴァリーニ他			
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。			
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			
自学自習	予習：スケール・エチュードを自分なりに解釈し完成させてくること。（2時間） 復習：レッスンで出てきた課題をできるだけ解決すること。（2時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	基礎練習①	支えと音の方向性について
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置
4	基礎練習、前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンプシュア
5	基礎練習、前期試験に向けて②	低音域のポジション
6	基礎練習、前期試験に向けて③	高音域のポジション
7	基礎練習、前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習、前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング
9	基礎練習、前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係
10	基礎練習、前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係
11	基礎練習、前期試験に向けて⑧	fの出し方
12	基礎練習、前期試験に向けて⑨	Pの出し方
13	基礎練習、前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習、前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習、前期試験に向けて⑫	前期のまとめ
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価

科目名	伴奏法	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 伴奏の役割を学び、アンサンブルの重要性の基本を学ぶ [授業全体の内容の概要] 歌曲、合唱曲などの伴奏を中心として呼吸、バランス等を学修する。教職必修科目でもあるので、中学校教材の中から、また音楽療法の実習もふまえて選曲をしていく。簡単なコードネームによる伴奏付けも学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 伴奏の役割の大切さを理解する。コードネームによる伴奏を実践できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①授業毎の課題を消化できるか。 ②歌詞の意味を理解できるか。 ③自分で考えて演奏をしているか。			
受講資格	短大音楽科2年	成績評価 方法	実技試験８０点、平常点２０点	
教科書	特になし			
参考書	中学校教科書（音楽）、その他。			
学生への要望	実技を伴う授業なので、課題の練習をすること。音楽のセンスを養ってほしい。			
オフィスタイム	月～金曜日１２：００～１２：５０、水曜日Ⅴ限、金曜日Ⅴ限 No.1 音楽科研究室			
自学自習	事前学習：当日の課題を練習しておくこと。（１時間） 事後学習：授業の内容の確認のための練習をする。（１時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	導入	年間の授業計画を説明し、伴奏の役割の大切さを認識させる。次回の授業の課題を出す。
2	滝廉太郎作曲「花」の演習 1	前回の授業で出した課題「花」を弾かせる。曲全体の注意点を説明し、学生それぞれに適切なアドバイスを与える。詩の解釈をする。
3	滝廉太郎作曲「花」の演習 2	前回に引き続き「花」を演習する。ある程度弾ける様になった学生は終了させる。8割以上の学生が弾けるようになったことを確認し、次の課題を与える。
4	滝廉太郎作曲「花」3、中田章作曲「早春賦」の演習 1	「花」が合格していない学生は引き続き学習させる。他の学生には中田章作曲「早春賦」を演習させる。
5	中田章作曲「早春賦」の演習 2	「花」を全員終了したことを確認し、「早春賦」の解釈と注意点を説明する。その後演習させる。
6	中田章作曲「早春賦」の演習 3	先週に引き続き注意を与えながら演習をさせる。
7	中田章作曲「早春賦」の演習 4	「早春賦」を先週に引き続き演習させる。学生それぞれに、アドバイスを与えながら弾かせる。終了した学生には次の課題、中田喜直作曲「夏の思い出」を与える。
8	中田章作曲「早春賦」5、中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 1	「早春賦」を全員終了したことを確認し、「夏の思い出」の詩の解釈、曲の解釈、注意点を与える。
9	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 2	「夏の思い出」を演習させる。それぞれに適切な注意、アドバイスを与える。次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」を与える。
10	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 3	日本歌曲についての解説と演習。
11	中田喜直作曲「夏の思い出 4」、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 1	「夏の思い出」を全員が終了したことを確認し、次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習をする。曲の解説、伴奏をする上での注意点を説明する。
12	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 2	「浜辺の歌」の演習をさせる。学生各自に適切なアドバイスをしながら、授業を進める。
13	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 3	前回に引き続き「浜辺の歌」の演習をする。2週間後に行う小テストについての説明と、課題を与える。課題はこの時点での学生のレベルを考慮し、2～3曲を提示する。
14	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 4	前回に引き続き演習を進める。
15	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 5	夏期休業中の課題「郡山女子大学校歌」を出す。
16	校歌（深尾須磨子作詞、一宮道子作曲）の演習 1	郡山女子大学の「校歌」の歌詞の解釈、演奏の注意点を考えさせて、演習をする。
17	「校歌」の演習 2	前回に引き続き校歌の演習を継続する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	「校歌」の演習3、山田耕 作作曲「赤とんぼ」の演習 1	校歌が終了した学生は「赤とんぼ」の演習に入る。歌詞、曲の解釈を考えさせて、演奏の注意点を説明する。
19	「校歌」4、「赤とんぼ」 の演習2。簡単な旋律に伴 奏をつける学習1	前回に引き続き「校歌」、「赤とんぼ」を演習させる。簡単な旋律に伴奏をつけることを学修する。
20	「校歌」5、「赤とんぼ」 3の演習、伴奏付け2	「校歌」をほぼ全員終了したことを確認し、「赤とんぼ」を演習させる。授業の後半で、簡単な伴奏付けを行う。
21	「赤とんぼ」の演習4、中 田喜直作曲「雪の降る街 を」の演習1、伴奏付け3	「赤とんぼ」を終了した学生には、次の課題として中田喜直作曲「雪の降る街を」を与える。簡単な伴奏付けを行う。
22	「雪の降る街を」の演習 2、伴奏付け4	「雪の降る街を」の歌詞の解釈、伴奏をする上での注意点等を考えさせ、説明を加える。その後、演習に入る。伴奏付けは少しずつ移調も試みる。
23	「雪の降る街を」の演習 3、伴奏付け5	前回に引き続き「雪の降る街を」を学生各自にアドヴァイスをしながら、授業を進める。伴奏付けは移調ができるように、考えさせる。
24	「雪の降る街を」の演習 4、伴奏付け6	「雪の降る街を」をほぼ全員終了したことを確認する。伴奏付けはなるべく多くの課題を実践させる。
25	簡単な童謡の演習1、伴奏 付け7	体や指を使って、歌いながらできる童謡や歌を学修する。伴奏付けは引き続き多くの課題をこなすようにする。
26	簡単な童謡の演習2、伴奏 付け8	前回に引き続き、童謡の伴奏を弾くことを継続させる。伴奏付けも多様な形式の課題をとにかく多く演習させる。
27	童謡の演習3、伴奏付け9	聞いたことはあるが弾いた事はない曲、新しい曲等を選んで演習させる。伴奏付けは引き続き行う。
28	童謡の演習4、伴奏付け1 0	前回に同じく、継続して演習をさせる。卒業試験の演奏（伴奏）についての質問、あるいは実際に演奏をさせて指導をする時間を取る。
29	授業の理解の確認	1年間の授業の感想、反省、意見などを聞く。まとめの課題を出す。
30	授業のまとめ	1年間の確認とまとめ

平成30年度	科目名	ソルフェージュⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修		
	担当教員	南川 肇, 深谷 悠理絵				
	開講期	通年				
	授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。				
	達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになったか。				
	受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	学期末テスト80点、平常点20点		
	教科書	印刷物の配布				
	参考書	特になし				
	学生への要望	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。				
	オフィスタイム	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室				
	自学自習	予習：楽譜をよく読み、音程やリズムを正しく歌えるようにすること。また音をよく聴く習慣をつけること（1時間） 復習：授業を踏まえて、苦手な部分の克服に努めること（1時間）				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト
2	ソルフェージュの基礎1	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
3	ソルフェージュの基礎2	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
4	ソルフェージュの基礎3	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
5	聴音ステップ1①	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
6	聴音ステップ1②	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
7	聴音ステップ1③	リズム、8小節のやや複雑な単旋律聴音と2声聴音を行なう。
8	聴音と新曲視唱1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
9	聴音と新曲視唱2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるので、新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。
11	聴音ステップ2①	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
12	聴音ステップ2②	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
13	聴音ステップ2③	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
14	聴音ステップ2④	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
15	聴音ステップ2⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2声、4声体）と解説。
16	聴音ステップ3①	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
20	演習1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
21	演習2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
22	演習3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
23	演習4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
24	演習5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
25	演習6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
26	演習7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
27	演習8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	演習 9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
29	演習 1 0	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
30	演習 1 1	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2 声、4 声体）と解説。

平成30年度

平成30年度	科目名	ソルフェージュⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修		
	担当教員	南川 肇, 深谷 悠理絵				
	開講期	通年				
	授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。				
	達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができましたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができましたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになりましたか。				
	受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	学期末テスト80点、平常点20点		
	教科書	印刷物の配布				
	参考書	特になし				
	学生への要望	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。				
	オフィスタイム	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室				
	自学自習	予習：楽譜をよく読み、音程やリズムを正しく歌えるようにすること。また音をよく聴く習慣をつけること（1時間） 復習：授業を踏まえて、苦手な部分の克服に努めること（1時間）				

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト
2	ソルフェージュの基礎1	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
3	ソルフェージュの基礎2	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
4	ソルフェージュの基礎3	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
5	聴音ステップ1①	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
6	聴音ステップ1②	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
7	聴音ステップ1③	リズム、8小節のやや複雑な単旋律聴音と2声聴音を行なう。
8	聴音と新曲視唱1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
9	聴音と新曲視唱2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるので、新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。
11	聴音ステップ2①	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
12	聴音ステップ2②	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
13	聴音ステップ2③	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
14	聴音ステップ2④	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
15	聴音ステップ2⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2声、4声体）と解説。
16	聴音ステップ3①	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
20	演習1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
21	演習2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
22	演習3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
23	演習4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
24	演習5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
25	演習6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
26	演習7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
27	演習8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	演習 9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
29	演習 1 0	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
30	演習 1 1	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2 声、4 声体）と解説。

平成30年度

科目名	合唱Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 2単位 必修	
担当教員	磯部 哲夫, 深谷 悠理絵			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であると言う責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 この授業は一、二年合同で行います。定期演奏会のための練習その他を行います。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 合唱の楽しみを知り、将来に役立つ音楽性を身につけます。 【履修カルテ評価項目】 ①自分のパートを正しく歌えているか。 ②曲の意味を理解して歌っているか。 ③他のパートと協調し美しいアンサンブルが出来ているか。			
受講資格	音楽科 1 年	成績評価 方法	実技試験 8 0 %、平常点 2 0 %	
教科書	合唱作品			
参考書	なし			
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題となっている曲の楽譜をよく読んでおく事。（1時間） 事後学習：練習で明確になった課題について復習しておく事。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー		
回	項目	授業内容
1	合唱音楽への導入	合唱音楽への導入として簡単な楽曲を取り上げ、合唱のハーモニーの豊かさを実感する。一年生はパート決めを行う。
2	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他 ①	オープンキャンパスのための練習。
3	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他②	声質の統一、音程、音質など細かい部分に注意しながら曲の持つ繊細な美しさを表現。パートごとの譜読みを行う。
4	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他③	曲の持つ響きの豊かさ情感を味わいながら合わせの練習。
5	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他④ 並行して定期演奏会の演奏曲目についての準備。	譜読み、合わせ。
6	定期演奏会の演奏曲目についての準備	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。
7	定期演奏会の演奏曲目の練習①	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。 合わせの練習、次の曲も練習しておく。
8	定期演奏会の演奏曲目の練習②	まとめ。音程、テンポ、表現などの確認。
9	定期演奏会の演奏曲目の練習③	曲の抒情感、リズム感を感じながら歌う。
10	定期演奏会の演奏曲目の練習④	合わせ。リズムに乗り歌う。前の曲も合わせて練習する。
11	定期演奏会の演奏曲目の練習⑤	譜読み、合わせ。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。
12	定期演奏会の演奏曲目の練習⑥	譜読み、合わせ。ゆっくりとした曲だが情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。前曲の復習。
13	定期演奏会の演奏曲目の練習⑦	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。
14	定期演奏会の演奏曲目の練習⑧	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。これまでの復習。
15	全曲。定期演奏会の練習⑨	全曲の仕上げをする。 定演の練習。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	定期演奏会の練習⑩	定演のための練習を行う。
17	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
18	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
19	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
20	ポリフォニー①	パレストリーナなどの中世の合唱曲や合唱の原点である西洋の宗教曲に触れることにより合唱の響きを味わう。
21	ポリフォニー②	合唱の原点である中世の宗教曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを知る。
22	ポリフォニー③	アベ・マリア、アヴェ・ヴェルム・コルプス、など西洋の合唱音楽に触れる。
23	世界の合唱音楽①	モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなど古典の名曲に触れることによりより深く合唱の響きを知る。
24	世界の合唱音楽②	前週の続き。モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなどの合唱曲。
25	世界の合唱音楽③	前週の続き。シューベルトなどその他の名曲に触れる。
26	日本の合唱音楽①	日本には優れた合唱曲が数多くある。それらを歌うことにより日本語の美しさを味わう。 三善晃、中田喜直、湯山昭その他。
27	日本の合唱音楽②	前週の続き。音楽の内容を更に深める。
28	日本の合唱音楽③	前週に引き続き音楽を深める。その他の名曲も紹介する。
29	合唱の喜びのまとめ	合唱音楽のさまざまな時代、様式などを踏まえながら合唱の喜びを深める。
30	合唱の喜びのまとめと試験	アンサンブルによる試験。3，4名ずつのグループを作り、室内合唱としてのアンサンブルを経験する。

平成30年度

科目名	合唱Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	磯部 哲夫, 深谷 悠理絵			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であると言う責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 授業は一、二年合同で行います。一年次での基礎を踏まえ合唱作品の名曲に触れます。			
達成目標	「授業修了時の達成度」 合唱音楽を通して将来に役立つ音楽性を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①音程リズムを正確に歌う事が出来るか。 ②他と協調し、アンサンブルがスムーズにできるか。 ③楽曲を正しく理解しているか。			
受講資格	音楽科2年	成績評価 方法	実技試験 80%、平常点 20%	
教科書	合唱作品			
参考書	なし			
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。			
オフィスタイム	月・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室			
自学自習	事前学習：課題となっている曲の楽譜をよく読んでおく事（1時間） 事後学習：練習で明確になった課題について復習しておく事。（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	合唱音楽への導入	合唱音楽への導入として簡単な楽曲を取り上げ、合唱のハーモニーの豊かさを実感する。一年生はパートを決める。
2	オープンキャンパスの演奏曲①	オープンキャンパスでは授業の一環として合唱を演奏する。曲目は浜辺の歌など4曲。（一年のシラバス参照）
3	オープンキャンパスの演奏曲②	声質の統一、音程、音質など細かい部分に注意しながら曲の持つ繊細な美しさを表現。パートごとの譜読みを行う。
4	オープンキャンパスの演奏曲③	曲の持つ響きの豊かさ情感を味わいながら合わせの練習。
5	オープンキャンパスの演奏曲④ 並行して定期演奏会の演奏曲	譜読み、合わせ。
6	定期演奏会の演奏曲①	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。
7	定期演奏会の演奏曲②	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。 合わせの練習、次の曲も練習をする。
8	定期演奏会の演奏曲③	まとめ。音程、テンポ、表現などの確認。
9	定期演奏会の演奏曲④	譜読み、リズム感を感じながら歌う。
10	定期演奏会の演奏曲⑤	合わせ。リズムに乗り歌う。前曲も合わせて練習する。
11	定期演奏会の演奏曲⑥	譜読み、合わせ。情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。
12	定期演奏会の演奏曲⑦	譜読み、合わせ。情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。前曲の復習。
13	定期演奏会の演奏曲⑧	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。
14	定期演奏会の演奏曲⑨	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。これまでの復習。
15	定期演奏会の演奏曲全曲⑩	全曲の仕上げをする。 定演の練習。
16	定期演奏会の練習⑪	定演のための練習を行う。
17	定期演奏会の練習⑫	定演のための練習を行う。
18	定期演奏会の練習⑬	定演のための練習を行う。
19	定期演奏会の練習⑭	定演のための練習を行う。
20	ポリフォニー①	パレストリーナなどの中世の合唱曲や合唱の原点である西洋の宗教曲に触れることにより合唱の響きを味わう。
21	ポリフォニー②	合唱の原点である中世の宗教曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを知る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	ポリフォニー③	アベ・マリア、アヴェ・ヴェルム・コルプス、など西洋の合唱音楽に触れる。
23	世界の合唱音楽①	モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなど古典の名曲に触れることによりより深く合唱の響きを知る。
24	世界の合唱音楽②	前週の続き。モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなどの合唱曲。
25	世界の合唱音楽③	前週の続き。シューベルトなどその他の名曲に触れる。
26	日本の合唱音楽①	日本には優れた合唱曲が数多くある。それらを歌うことにより日本語の美しさを味わう。 三善晃、中田喜直、湯山昭その他。
27	日本の合唱音楽②	前週の続き。音楽の内容を更に深める。
28	日本の合唱音楽③	前週に引き続き音楽を深める。その他の名曲も紹介する。
29	合唱の喜びのまとめ	合唱音楽のさまざまな時代、様式などを踏まえながら合唱の喜びを深める。
30	合唱の喜びとのまとめと試験	アンサンブルによる試験。3，4名ずつのグループを作り、室内合唱としてのアンサンブルを経験する。

平成30年度

平成30年度	科目名	合奏Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 音楽科 1年 4単位 必修
	担当教員	南川 肇, 増子 仁保		
	開講期	通年		
	授業概要	「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。 「授業全体の内容の概要」 Ⅰ、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。		
	達成目標	「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか		
	受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	実技試験80％、平常点20％
	教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。		
	参考書	なし		
	学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。		
	オフィスタイム	火～金曜日 12:00～12:50 音楽科第1研究室		
	自学自習	事前学習：課題曲の自分のパートをよく練習してくること。（1時間） 事後学習：授業にて出てきた課題を解決しておくこと。（1時間）		

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
2	創立記念式典の練習②	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
3	創立記念式典の練習③	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
4	創立記念式典の練習④	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
5	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
6	定期演奏会の演奏曲②	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
7	定期演奏会の演奏曲③	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
8	定期演奏会の演奏曲④	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
9	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションの続き。
10	定期演奏会の演奏曲⑥	パート、セクションの続き。
11	定期演奏会の演奏曲⑦	パート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
12	定期演奏会の演奏曲⑧	パート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
13	定期演奏会の演奏曲⑨	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
14	定期演奏会の演奏曲⑩	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
15	定期演奏会の演奏曲⑪	ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	定期演奏会の演奏曲⑫	ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。
17	定期演奏会の演奏曲⑬	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
18	定期演奏会の演奏曲⑭	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
19	定期演奏会の演奏曲⑮	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
20	定期演奏会の演奏曲⑯	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
21	定期演奏会の演奏曲⑰	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
22	定期演奏会の演奏曲⑱	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
23	定期演奏会の演奏曲⑲	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
24	定期演奏会の演奏曲⑳	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
25	定期演奏会の演奏曲㉑	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
26	定期演奏会の演奏曲㉒	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
27	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
28	シューベルト「ロザムンデ」他②	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
29	シューベルト「ロザムンデ」他③	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
30	シューベルト「ロザムンデ」他④	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
31	シューベルト「ロザムンデ」他⑤	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
32	シューベルト「ロザムンデ」他⑥	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
33	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
34	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
35	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
36	ブラームス「ハンガリアンダンス」他④	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
37	ブラームス「ハンガリアンダンス」他⑤	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
38	ブラームス「ハンガリアンダンス」他⑥	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
39	コラール「すべての宝にまさる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまさる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
40	コラール「すべての宝にまさる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
41	コラール「すべての宝にまさる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
42	コラール「すべての宝にまさる宝」その他④	前週の続き。弦、管のパート練習。
43	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑤	前週の続き。弦、管のパート練習。
44	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑥	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
45	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑦	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
46	コーラル「すべての宝にま さる宝」その他⑧	前週の続き。コーラル以外の奏楽曲について練習。
47	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
48	オーケストラの響き②	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
49	オーケストラの響き③	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
50	オーケストラの響き④	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
51	オーケストラの響き⑤	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
52	オーケストラの響き⑥	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
53	オーケストラの響き⑦	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
54	オーケストラの響き⑧	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
55	コーラルその他①	再び卒業式の奏楽の練習。
56	コーラルその他②	再び卒業式の奏楽の練習。
57	コーラルその他③	再び卒業式の奏楽の練習。
58	コーラルその他④	再び卒業式の奏楽の練習。
59	コーラルその他⑤	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。
60	コーラルその他⑥	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。

平成30年度

科目名	合奏Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
担当教員	南川 肇, 増子 仁保		
開講期	通年		
授業概要	「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。 「授業全体の内容の概要」 Ⅰ、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。		
達成目標	「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか		
受講資格	音楽科1年	成績評価 方法	実技試験80%、平常点20%
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。		
参考書	なし		
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。		
オフィスタイム	火～金曜日 12:00～12:50 音楽科第1研究室		
自学自習	事前学習：課題曲の自分のパートをよく練習してくること。（1時間） 事後学習：授業にて出てきた課題を解決しておくこと。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
2	創立記念式典の練習②	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
3	創立記念式典の練習③	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
4	創立記念式典の練習④	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
5	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
6	定期演奏会の演奏曲②	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
7	定期演奏会の演奏曲③	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
8	定期演奏会の演奏曲④	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
9	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションの続き。
10	定期演奏会の演奏曲⑥	パート、セクションの続き。
11	定期演奏会の演奏曲⑦	パート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
12	定期演奏会の演奏曲⑧	パート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
13	定期演奏会の演奏曲⑨	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
14	定期演奏会の演奏曲⑩	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。
15	定期演奏会の演奏曲⑪	ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	定期演奏会の演奏曲⑫	ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。
17	定期演奏会の演奏曲⑬	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
18	定期演奏会の演奏曲⑭	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。
19	定期演奏会の演奏曲⑮	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
20	定期演奏会の演奏曲⑯	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
21	定期演奏会の演奏曲⑰	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
22	定期演奏会の演奏曲⑱	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
23	定期演奏会の演奏曲⑲	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
24	定期演奏会の演奏曲⑳	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
25	定期演奏会の演奏曲㉑	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
26	定期演奏会の演奏曲㉒	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
27	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
28	シューベルト「ロザムンデ」他②	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
29	シューベルト「ロザムンデ」他③	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
30	シューベルト「ロザムンデ」他④	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
31	シューベルト「ロザムンデ」他⑤	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
32	シューベルト「ロザムンデ」他⑥	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
33	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
34	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
35	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
36	ブラームス「ハンガリアンダンス」他④	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
37	ブラームス「ハンガリアンダンス」他⑤	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
38	ブラームス「ハンガリアンダンス」他⑥	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
39	コラール「すべての宝にまさる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまさる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
40	コラール「すべての宝にまさる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
41	コラール「すべての宝にまさる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
42	コラール「すべての宝にまさる宝」その他④	前週の続き。弦、管のパート練習。
43	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑤	前週の続き。弦、管のパート練習。
44	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑥	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
45	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑦	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
46	コーラル「すべての宝にま さる宝」その他⑧	前週の続き。コーラル以外の奏楽曲について練習。
47	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
48	オーケストラの響き②	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
49	オーケストラの響き③	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
50	オーケストラの響き④	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
51	オーケストラの響き⑤	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
52	オーケストラの響き⑥	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
53	オーケストラの響き⑦	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
54	オーケストラの響き⑧	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
55	コーラルその他①	再び卒業式の奏楽の練習。
56	コーラルその他②	再び卒業式の奏楽の練習。
57	コーラルその他③	再び卒業式の奏楽の練習。
58	コーラルその他④	再び卒業式の奏楽の練習。
59	コーラルその他⑤	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。
60	コーラルその他⑥	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。

平成30年度

平成30年度			
科目名	アンサンブル	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	南川 肇		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 アンサンブルの演奏方法、コミュニケーションの取り方、練習方法などのテクニックを身につける。 〔授業全体の内容の概要〕 様々な編成の室内楽を、個々のレベルに合わせ演奏する。		
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 アンサンブルのテクニックを身につけ、様々な編成の室内楽の演奏法ができるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①室内楽の演奏方法を理解できたか。 ②他の声部をよく理解し、それに合わせた演奏ができたか。 ③他の奏者に、方向性を示すことができたか。		
受講資格	音楽科2年生	成績評価 方法	実技試験90%、平常点10%
教科書	個々のレベルにあった、アンサンブル曲。		
参考書	無し		
学生への要望	室内楽の奏法を身につけ、音楽一般の演奏力を伸ばしてもらいたい。		
オフィスタイム	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50		
自学自習	予習：課題になる曲に対し、自分のパートをしっかりと練習してくること。また皆で合わせておくこと。（1時間） 復習：授業の内容をふまえ、さらに完成度を増すアンサンブルをすること。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明
2	基本練習①	ブレス、アインザッツの重要性と方法。
3	基本練習②	ブレス、アインザッツの重要性と方法。
4	基本練習③	テンポ設定と音楽表現。
5	基本練習④	テンポ設定と音楽表現。
6	実践①	個々のレベルと編成にあった選曲。
7	実践②	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。
8	実践③	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
9	実践④	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
10	実践⑤	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
11	実践⑥	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
12	実践⑦	曲の分析とその表現方法。
13	実践⑧	曲の分析とその表現方法。
14	実践⑨	発表に向けての準備。
15	発表	授業の成果発表。及び評価。
16	実践⑩	個々のレベルと編成にあった選曲。
17	実践⑪	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。
18	実践⑫	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
19	実践⑬	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
20	実践⑭	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
21	実践⑮	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
22	実践⑯	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
23	実践⑰	個々のレベルと編成にあった選曲。
24	実践⑱	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
25	実践⑲	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
26	実践⑳	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
27	実践㉑	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
28	実践㉒	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
29	実践㉓	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
30	発表	研究成果の発表。及び評価。

科目名	音楽鑑賞	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 4単位 選択	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	「授業の目的・ねらい」 CD、LD、DVD、ビデオなどのソフトを用い、さまざまな音楽に触れることにより、古典から現代までのクラシック音楽の本質について学ぶ。 「授業全体の内容の概要」 音楽鑑賞は、古今の名曲を鑑賞するにとどまらず、作曲家の個性、時代背景、時代様式などを知ることにより、音楽がいかに社会と密接にかかわってきたかを知る。			
達成目標	「授業修了時の到達目標」 音楽史を正しく理解し、音楽の意味について深く理解する。 【履修カルテの評価項目】 ①時代性、様式について理解できているかどうか。 ②音楽史の流れを正しく理解できているかどうか。 ③美しいものを感じ取る感性が育っているかどうか。			
受講資格	音楽科1年、生涯学習生	成績評価 方法	レポート80%、平常点20%	
教科書	『新音楽史』 H.M. ミラー著 東海大学出版			
参考書	無し			
学生への要望	意欲を持って豊富な知識を身につけ、自由な感性を育てて欲しい。			
オフィスタイム	火～金曜日 12：00～12：50 音楽科第1研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を確認し、楽曲や、作曲者について下調べをしておくこと。（1時間） 事後学習：鑑賞した作品について感想をまとめておくこと。（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	音楽鑑賞は単に名曲を聴く、という事だけではない。音楽を鑑賞する真の意味について考える。 また、聴くポイントやそこから何を学び取るか、について考える。
2	ヤング・ピープルズ・コンサート1	ヤング・ピープルズ・コンサートは20世紀最大の作曲家・指揮者であったレナード・バーンスタインが自らライフワークと位置付け、25回、15年に亘ってテレビ放映した青少年のための音楽教室である。第一回は「音楽って何？」 我々が如何に間違った聴き方をしているか分かりやすく説いている。
3	アメリカ音楽	アメリカのクラシック音楽がアメリカの独自性を発揮するまでの歴史について
4	オーケストレーション	音楽をオーケストラで表現する際、楽器の組み合わせの可能性や効果、楽器の処理の仕方について
5	交響楽	単純な旋律を元に、あらゆる技法を駆使して組み合わせ、展開し、和音を変え、リズム、テンポを変えるシンフォニックな響きについて
6	古典派音楽	クラシック音楽には大きく分けてバロック、古典派、ロマン派、近代、現代など時代と共に発展した様式や国民学派など地域独自の発展を遂げた様々なスタイルがある。バッハ、ヘンデルなどのバロック時代からハイドンモーツァルトを経てベートーヴェンに至る古典派の音楽がどのようなものであったか説明する。
7	コンサート・ホールの中の民族音楽	音楽の根底にある民謡やフォークダンスについて
8	印象主義	フランスのドビュッシーやラヴェルの音楽は特殊な音階や和音を使って神秘的な不思議な響きを作り出す。 暗示は現実主義に勝りうるというフランスに生まれた考え方に基づく印象主義音楽について
9	ソナタ形式	多くの音楽が作られてる重要な形式であるソナタ形式について
10	旋法	私たちが愛する音楽の大部分は「旋法」と呼ばれる昔からある音階に基づいている。 現在の長、短音階の元となったもので、教会旋法、ギリシャ旋法などがあるが、現在も旋法を用いた例は多い。
11	ベルリオーズの「幻想」	音楽はあくまで音自体が目的の建造物であって物語をなぞるものではない。しかしロマン派に至って標題音楽、つまり物語りや心象風景を音を手段として用い、表現する手法が発達した。ベルリオーズの「幻想」交響曲はその先駆と言われている。
12	協奏曲	さまざまな楽器の協奏曲について
13	クイズ・コンサート	音楽の常識や鑑賞のポイントをクイズを通して解説する。 作曲家の名前、国籍、時代、様式など鑑賞に必要な知識を持つことは大事なことである。
14	バレエの中の鳥たち	チャイコフスキー「白鳥の湖」ストラヴィンスキー「火の鳥」どちらも魅力にあふれた作品だがバレエが無く音楽だけでも十分楽しむことが出来る。
15	フィデリオ 命の讃歌ー	フィデリオはベートーヴェンの唯一のオペラ。この音楽のあふれる魅力について考える。
16	オペラの楽しみ①	2週にわたってモーツァルト作曲、歌劇「ドン・ジョバンニ」を鑑賞。総合芸術としてのオペラは音楽のあらゆる要素が入っている。Ⅳ期はオペラを中心に鑑賞し、音楽の素晴らしさを知る。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
17	オペラの楽しみ②	「ドン・ジョバンニ」の2回目。解説。
18	オペラの楽しみ③	プッチーニ作曲、歌劇「ラ・ボエーム」を2週にわたって鑑賞。イタリアオペラの代表的作曲家の他の作品についても解説する。
19	オペラの楽しみ④	「ラ・ボエーム」の2回目。解説。
20	オペラの楽しみ⑤	ヴェルディ作曲、歌劇「椿姫」を3週にわたって鑑賞。ヴェルディはプッチーニと並ぶイタリアオペラの大家。ヴェルディの他の作品についても解説。
21	オペラの楽しみ⑥	「椿姫」の2回目。
22	オペラの楽しみ⑦	「椿姫」の3回目。
23	オペラの楽しみ⑧	オペラの最高傑作の一つビゼー作曲、歌劇「カルメン」を2回にわたって鑑賞。
24	オペラの楽しみ⑨	「カルメン」の2回目。解説。
25	オペラの楽しみ⑩	ベートーヴェン作曲、歌劇「フィデリオ」を3週にわたって鑑賞。フィデリオはベートーヴェン唯一のオペラ。 モーツァルト以来のドイツオペラの伝統について解説。
26	オペラの楽しみ⑪	「フィデリオ」の2回目。
27	オペラの楽しみ⑫	「フィデリオ」の3回目。
28	オペラの楽しみ⑬	ロッシーニ作曲、歌劇「セビリアの理髪師」を2回にわたって鑑賞。
29	オペラの楽しみ⑭	「セビリアの理髪師」の2回目。
30	鑑賞のまとめ	音楽鑑賞で学んだこと、音楽について知り得た事など討論形式をもって話し合う。

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員	磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40％、演奏60％にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日12：00～12：50 No.1 音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し譜読み、楽曲研究を行うこと（1時間） 復習：既習楽曲に対し技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと（1時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	演奏研究1	声楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	声楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究17	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究18	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究19	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究20	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究21	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究22	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40%、演奏60%にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	月曜日から金曜日12：00～12：50、水曜日V限、金曜日V限 No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題楽曲に対し、楽曲研究を行うこと。（2時間） 復習：既習楽曲に対し、技術的・芸術的な向上を目指し楽曲研究を行うこと。（2時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	演奏研究1	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究17	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究18	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究19	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究20	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究21	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究22	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員	南川 肇			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
達成目標	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。			
受講資格	短大音楽科2年生	成績評価 方法	小論文40％、演奏60％にて評価	
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍			
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。			
オフィスタイム	火曜日から金曜日12：00～12：50 No.1 音楽科研究室			
自学自習	予習 課題曲について時代背景等考慮し、演奏できるよう研究する。（2時間） 復習 授業で明らかになった問題点等を解決するよう、研究・練習をする。（2時間）			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	演奏研究1	管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究17	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究18	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究19	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究20	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究21	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究22	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

平成30年度

科目名	音楽療法各論Ⅰ（基礎）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	三瓶 令子			
開講期	前期			
授業概要	○学生自身の感受性と感覚をひらき、障害や病気をもつ子どもや高齢者とセッションをしたり、シェアする者として働きかける「からだ」と、こちよく届く声をつくる。 ○学内でのまなびを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域施設において高齢者の前でセッションの体験をしてみる。			
達成目標	①障害や病気をもつ子どもや高齢者とセッションすることのできるからだ、こちよく届く声をつくることができたか。 ②現場で実践するために、プログラミングすることができるか。 ③フィールド応用体験ワークとして、地域施設において高齢者の前でセッションの体験をしたことから学んだことは何か。			
受講資格	音楽科1年生	成績評価 方法	レポート30点、実技70点	
教科書	相澤 保正編著 『歌でコミュニケーション 福祉音楽80曲』改訂版 KYODO-MUSIC出版 2007年			
参考書	丸山 忠璋著 『療法的音楽活動のすすめ』 春秋社 2002年			
学生への要望	○適宜資料（プリント）を配布するので、各自ファイルを準備する。 ○動き易い服装で参加する。 ○フィールドには、9月 土曜日の午前中（日時未定）2時間を予定している。 ○授業を通して体験的に学ぶので、授業を休まない。			
オフィスタイム	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室			
自学自習	自学自習 事前：テキストの「解説・コラム」の内容を必ず読んでくる。 事後：講義内容を整理するとともに、授業で取り上げた教材を必ず復習（歌う・弾く）しておく。			

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	○音楽療法に関するイメージ、及び授業への要望等の調査「授業開始にあたって」の記入 ○各種プリントの配布と説明 ・「全国音楽療法士養成協議会」について ・「音楽療法学会」の現状と「音楽療法士認定規則」について ・「ピアノレスナーの音楽療法」等
2	音楽療法の発声について	○「楽しい発声のドリル」1, 2, 3によるレッスン(VTR使用) ・からだが発声のこと、声が届くということとは
3	コミュニケーションをとる歌について①	○相手とコミュニケーションをとる歌をうたう ・手合せ歌「アルプス一万尺」「十五夜さんのもちつき」 ・ボディーパーカッションによる歌「かっこうのごあいさつ」 ・ゼスチャーとアクションの違い「大きな栗の木の下で」「あめふりくまのこ」「大きな古時計」 ・輪唱と交互唱の違いについて「森のくまさん」「こぶたぬきつねこ」「大きな歌」 ・4拍子のリズムあそび「あしたも元気で」
4	フィールドワークの準備	○プログラムの提示 ・自己の専攻とプログラムの整合性を図る ・唱歌・童謡・流行歌等の歴史と価値を学ぶ ・高齢者の青春とそれぞれの歌が流行した時代を対応させ、プログラミングしてみる
5	歌詞を感じて歌う Part1	○歌詞を感じて歌うためのレッスン 「野に咲く花のように」「旅立ちの日に」「あなたが夜明けをづけるこどもたち」「千の風になって」
6	唱歌・童謡・流行歌を歌う	○明治期、大正期の唱歌、童謡を歌う ○さまざまな流行歌を歌う
7	フィールとワークへの準備、及び練習①	○グルーピング ・専攻ごとのソロ・デュオ・トリオ等、組み合わせを考える ・全員で歌う曲を決める ・司会・進行者を決める ・高齢者へのセッションの方法を考える
8	フィールとワークへの準備、及び練習②	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	フィールとワークへの準備、及び練習③	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
10	フィールとワークへの準備、及び練習④	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
11	フィールとワークへの準備、及び練習⑤	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
12	セッションの実際① リハーサル	○フィールドワークの準備と練習 ・本番を想定して、通し稽古をする ・タイムレコード・司会者とのタイミング・準備物・衣装等の確認
13	セッションの実際②	○フィールドワーク（「えぽか 本宮市」での実践）
14	セッションの実際③	フ○フィールドワーク（「えぽか 本宮市」での実践）
15	フィールドワークのまとめとⅡ期の反省（レポート提出）	○「えぽか」での体験について ・プログラムはどうだったか ・反応はどうだったか ・自分達の技術はどうだったか ○Ⅱ期で学んだ内容への反省

科目名	教育原理	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	関川 悦雄, 山本 裕詞		
開講期	I		
授業概要	本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。 さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスをを培うようにする。 ＜履修カルテの評価項目：到達目標＞ ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考えることができたか。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。 ③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。		
達成目標	＜履修カルテの評価項目：到達目標＞ ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができたか。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。 ③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになったか。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。		
受講資格	短期大学部 音楽科 1年 2単位	成績評価 方法	①授業中に1～2回レポートを課し、次の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価は本授業満点100点のうち10点。 ②学期末筆記試験結果は、100点の内80点。 この2つの総合点に、授業中の真摯さや積極性が見られた学生には加算する。他方、欠席等が多い場合やレポート提出のない学生には、総合点から減点措置をとる。
教科書	特に指定しない。 しかし、毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布するので、授業内容を忘れるということは決してない。それらを順序良くファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。 尚、次の、参考書の欄を参照のこと。		
参考書	①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世共編『最新教育原理』勁草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。 ②第8回からの授業は、教育制度の観点から教育原理の理解を深めることとなるため、最新の『教育小六法』を持参すること。 その他一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書、他に新聞記事など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。		
学生への要望	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、下調べ的な学習を求める。 1 学問的要望 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがあり、先ずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。 授業中に出てくる思想家、哲学者、教育行政官、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、常に次回授業までに、可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、その部分のコピーを取っておき、知識を確実にしよう。 2 守るべきこと ・毎回の授業には清らかな気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に教示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業時にそのファイルを持参し、教科書として活用すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出することは認められない。レポートは、A4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。		
オフィスタイム	随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。 関川：e.sekikawa@koryama-kgc.ac.jp 山本：y.yamamoto@koryama-kgc.ac.jp メールですぐに返事を出します。その折、面談可能な日時や面談場所について明示します。		

自学自習	当然ながら、授業中に出された調べ学習は「予習」となる。授業後の内容再理解の「復習」は重要で、教育を見る目を発展的に伸ばしてくれる。教育を見る目に変化が出てくるはずである。
------	---

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ 1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置
2	「教育」の意味に関する思想的アプローチ	1 レポート「私がうけた家庭教育の意義」の発表・意見交換。 本討論を通して、学校教育の意味と意義について考えるように誘う。 2 主観的生育環境から客観的学校教育体系とそこでの人間形成 本論 1 教育の意味をどうとらえるか 消極的教育と積極的教育の意味 教育“education”の語彙の起源からさぐる「教育」の意味 2 人間的成長の本質を考える 植物の成育、動物の飼育と成長、 そして人間の成長
3	子どもを取り巻く環境の変化と今日的課題	1 発達の問題、親の変化・家庭の変化 2 生活の変化と子どもへの影響関係 3 地域教育力 郡山市教育委員会の試み 4 子どもの主体性と自律性をどう育てるか 5 グローバル時代教育観：地球市民育成論 6 学校が担うあらたな役割 子どもの貧困問題の中で
4	西洋の教育思想を学ぶ：①古典の部	1 イデアリズム（観念論）の人間像と教育観 ギリシャ時代：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、 近世～近代：モンテーニュ、カント、アラン等の系譜 2 宗教的教育観 聖書の教えと、アウグスティヌス、 トマス・ア・ケンピス、コメニウスのパターン 3 感覚論的教育思想（科学的人間観の教育論） ロック
5	西洋の教育思想を学ぶ：②近世～現代の部	4 子ども中心の教育思想：「新教育」の教育思想 子どもの成長そのものを教育とみる考え方 ルソー、エレン・ケイ、ピアジェ、デューイの系譜 5 社会の継承発展の機能としての教育観 国家の管轄下に置かれた20世紀の学校と教育の機能 デュルケイム とくに、1945年以降の教育社会学の影響 6 学校崩壊論：「学校のない社会」という思想の求めていること 管理主義型学校教育への批判と解放論 他方、不登校児童・生徒の増加の問題 復習：主要な教育論者の著作の主張点を振り返る。
6	日本の教育思想	1 江戸時代末までの教育観：日本人の精神的骨格 「実語教」に学ぶ人間的熟成：儒教的人間像 2 「教育勅語」に支配された戦前までの教育：近代国家への躍動の中の学校教育 3 「教育基本法」と戦後の教育：アメリカ型学校教育の受容とそれらの変化 4 経済発展の中の受験体制と偏差値という重圧

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	学習指導要領と学校教育の展開	1 学習指導要領とは何か：教育法令の基礎から理解する 2 教育課程（カリキュラム）編成の在り方 教科の構造・学習の構造 学問的系統性と子どもの自主性・関心の相克 思想研究：ヘルバルトとデューイの相違 コンピューター活用の授業と学習形態の変化 3 国際比較からみたカリキュラム編成のあり方 教育行政の在り方との特色 4 今日の学力の国際比較とそれがもたらしたこと
8	教育法規の体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法・同施行規則 戦前・戦中の教育勅語体制との比較において、戦後の、いわゆる憲法・教育基本法体制の理解を深めます。また、その延長にみる平成18年教育基本法全部改正の意義を考察します。
9	日本の教育制度と行政	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム 日本の教育制度と行政を総覧した上で、教育行政の一般行政からの相対的独立の意義を考えます。
10	学校制度の類型	1. 学校制度の類型—単線型と複線型— 2. 他国の教育制度 3. 私教育と公教育の違い 学習権保障の内実を考察の中心に据えながら、国家・社会的見地からの学校体系の設計について検討します。
11	「学校」という空間	1. 学校・教室の風景 2. フリースクール 3. 子供の放課後活動の変遷 子どもの学びの形の多様化を、それが生じた背景を含めて理解することで、現状が抱える課題を可視化します。
12	生涯学習社会	1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状 生涯学習社会への移行を理解するために、コンドルセにみる理念的誕生と、その後の制度の推移を確認する。その上で、人間化へ向かう生涯学習と社会適応（資本適応）に向かう二つのベクトルがあることを理解し、我が国における「生涯学習社会」の実態を評価する。
13	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	1. 「いじめ」研究による「いじめ」解釈 2. 群生秩序と普遍秩序 3. いじめ防止対策推進法 「いじめ」研究による「いじめ」の構造について理解を深めた上で、いじめ防止対策推進法の内容を確認する。また、近年生じた「いじめによる自死」事件を分析し、当該ケースの問題点を考察する。
14	日本社会が抱える教育に関する病理（2）	1. 「教育病理」の理論と制度的対応の限界 「教育病理」概念についての理解を深め、それに対する制度的対応を確認することを通して、公教育に内在する原理的課題について考察する。
15	授業のまとめ	授業のまとめと確認を行う。

平成30年度

平成30年度			
科目名	教職論	対象 単位数 必選	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択/短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択/短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択
担当教員	山本 裕詞		
開講期	I		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要な「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来の意義から批判的に検討します。		
達成目標	1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。		
受講資格	教職等に就くことを希望する者	成績評価 方法	期末試験50%、授業末に実施する小テストや課題提出物等50%の割合で総合評価。
教科書	テキストは使用しませんが、最新版の教育小六法を用意すること（例えば、『教育小六法2018年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。		
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年		
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
オフィスタイム	月曜V限（16:10～17:40） 火曜I限（8:50～10:20） 場所：教職課程推進室（家政学館4階奥左） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koryama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		
自学自習	事前学習：シラバスの項目について、図書館やインターネット等を活用して調べ、疑問点を明らかにしておくこと（1時間） 事後学習：授業での学習内容を振り返り、ノートを補完する（1時間）		

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える
2	学校教育の機能 1	○学校教育の目的 （1）学校の種類 （2）学校の設置者 （3）教育行政と学校管理
3	学校教育の機能 2	○教職員とその職務 （1）教職員の職務とその内容 （2）事務職員の職務 （3）その他
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 （1）教職観と教員に求められる資質の関係 （2）専門職としての教員
5	学校の組織と運営 1	○校長および教頭、主任の職務と役割 （1）校長 （2）副校長、教頭 （3）主任等
6	学校の組織と運営 2	○学校の組織と運営 （1）校務分掌による役割分担 （2）新しい職による組織の変化
7	教諭の教育活動 1	○学級担任の職務と教科指導等 （1）学級担任の役割と学級経営 （2）教科指導 （3）養護教諭、栄養教諭の職務
8	教諭の教育活動 2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 （1）道徳教育の実際 （2）総合的な学習の時間
9	教諭の教育活動 3	○生徒理解にもとづく指導 （1）生徒指導の意義 （2）進路指導の意義
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 （1）勤務と休暇 （2）服務規律

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 （１）教員研修の種類 （２）教員研修の内容 （３）免許更新制度
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 （１）同和教育 （２）特別支援教育の理念と「障がい」理解 （３）貧困と教育機会
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 （１）いじめの現状と自己の認識 （２）いじめ重大事態における公教育責任 （３）専門職間の連携・協働
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 （１）学習指導要領の歴史的変遷 （２）新学習指導要領の目指すもの
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ

平成30年度

科目名	社会福祉概論	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
担当教員	熊田 伸子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	現代社会の生活問題に注目しつつ、日本の福祉制度について概要を学ぶ。			
達成目標	現代社会における福祉の課題が理解できている。 社会的困難を抱えている人々のニーズと福祉サービスについて理解できている。			
受講資格	地域創成学科 1年、音楽科 1年	成績評価 方法	期末試験 80% 小テスト 20%	
教科書	随時プリントを配布します			
参考書	授業の中で、紹介します			
学生への要望	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
オフィスタイム	金曜日の3・4限目（創学館4階 No.6研究室）			
自学自習	事前学習：当日の内容を確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートをまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-		
回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概略を説明する。 地域における福祉の課題について考え、グループで討議する
2	社会福祉の意義	具体的な事例により、現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する
3	社会福祉の理念	『サイレントプア』の視聴により、地域の福祉課題に目を向ける
4	生活と社会保障	生活を支える仕組みとしての社会保障の全体像について解説する
5	家庭児童福祉	児童家庭福祉の対象となる人々の状況を学ぶ 国の制度と地域で実践されている社会福祉活動について学ぶ
6	障がい者の福祉	障がい者の実態を学び、ニーズを理解する 障がい者を支えるサービスの概略を解説する
7	高齢者の福祉①	高齢者の心身の状況を理解する 高齢者を取り巻く状況を学ぶ
8	高齢者の福祉②	介護保険制度の概略を解説する 認知症高齢者について学ぶ
9	地域福祉①	コミュニティと生活課題
10	地域福祉②	社会資源について解説する。自分の生活する地域の社会資源について調べる（グループワーク）
11	地域福祉③	社会資源について調べた内容をグループごとに発表をし、理解を深める
12	少子高齢化時代の福祉政策	現代社会の大きな課題である少子高齢社会について概観する。その中での福祉政策の調整と進展についてどのように進められてきたかを知る
13	社会福祉実践の場	社会福祉の実施機関、社会福祉施設の概要について学ぶ
14	社会福祉の専門職	社会福祉の分野で働く専門職、ボランティア、NPO法人について学ぶ
15	まとめ	半期の講義を振り返り、まとめを行う。

平成30年度

科目名	生理学	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択	
担当教員	金子 依里香			
開講期	Ⅳ			
授業概要	[授業の目的] この科目は音楽療法士（二種）養成の教育課程科目の一つである。音楽療法士に必要となる、人体の仕組みと働きについての理解を深める。 [内容の概要] 細胞の構造、骨格系、筋系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、生殖系および内分泌系など、人体の構造とそれらの機能について系統立てて学ぶ。			
達成目標	[到達目標（授業終了時の達成課題）] 身につけた生理学の知識をいかし、音楽だけでなく科学的な視点から人々の心身の健康に働きかけることができる。			
受講資格	特になし		成績評価 方法	授業中に課す4回のミニテスト20点および期末試験80点満点の100点満点で評価する。60点以上で単位を認定する。
教科書	久木野憲司 著 「解剖生理学」金原出版株式会社、京都（20・第7刷）2,700円（税別）			
参考書	高校で使用した生物基礎の教科書・参考書等の復習を勧める。			
学生への要望	授業中はしっかりノートを取り、集中して受講すること。また、事前、事後学習を行うこと。 事前学習；教科書を読みながら、事前に配布する授業内容を抜粋した「予習プリント」を作成すること（1時間）。そのうえでその日の授業に臨むこと。 事後学習；「予習プリント」、ノートおよび教科書を使用し、授業内で配布する「確認プリント」を作成してミニテストに備えること（1時間）。			
オフィスタイム	水曜日の4・5コマ目および金曜日の3・4コマ目。 担当教員研究室			
自学自習	予習：前週に予習プリントを配布します。シラバイにある教科書の範囲をよく読んでプリントを完成させる（1時間）。 復習：授業後、教科書とノートをよく見直し、確認プリントを行う（1時間）。			

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。
2	細胞の構造と機能	細胞内に存在する、核、ミトコンドリア、ゴルジ体、などの細胞内小器官について学び、これらの細胞が集まり生物のからだが構成されていることを理解する。
3	骨格系	骨格系と筋系は運動器系ともいわれ、ともに身体を運動させるために働く。骨格は人体の支柱であり、筋と付着部を持つ受動的運動器官である。骨の微細構造や造血機能について理解する。
4	筋系	骨格系と筋系は運動器系ともいわれ、ともに身体を運動させるために働く。筋は能動的運動器官である。筋の微細構造を学ぶとともに、筋収縮の機序について理解する。
5	神経系の一般的性質	神経系は、体内における情報伝達や調節に重要な役割を持つ。神経系の分類、神経系を構成する要素について、そのつくりと働きについて学ぶ。
6	中枢神経系	脊椎動物の神経系は中枢神経系と末梢神経系の2つに大別される。中枢神経系は脳と脊髄からなり、神経系の中核として情報の処理や効果器への命令を出す司令塔の役割を持つ。脳と脊髄の構造を学ぶとともに、大脳などの主要な部分の機能について理解を深める。
7	末梢神経系	末梢神経系とは、中枢神経系と、からだの各器官や末梢部分を連絡する役割を持つ神経組織である。末梢神経系は形態学的に分類すると脳神経と脊髄神経に分かれる。また、「どんな働きをするか。」で分類すると体性神経と自律神経の2つに分けられる。ここでは脳神経と脊髄神経の分布について理解を深める。
8	循環器系（1）	循環器系は物質の運搬役として大切な役割を担っており、生命維持にとってとても重要な存在である。ここでは、心臓の構造と機能について学び理解を深める。
9	循環器系（2）	心臓から出ていく血管を動脈、心臓に入ってくる血管を静脈という。ここでは血液を含めた体液の組成を学ぶとともに脈拍、血圧についても理解を深める。
10	消化器系	消化器系とは、食物を摂取し、それを腸管から吸収できる程度まで分解し、吸収して血液に送る働きを行い、食物残差の排泄をつかさどる器官の集まりをいう。ここでは、消化器器官として胃と腸について学び、主要な栄養素の消化と吸収について理解を深める。
11	感覚器系（1）	ヒトは接触、音、光など、受ける刺激の種類によって、異なる感覚情報が生じる。それぞれの感覚には、感覚器と感覚中枢（感覚野）が備わっており、独特の仕組みが存在している。ここでは、感覚の種類と特異性について理解を深めるとともに体性内臓感覚についても学ぶ。
12	感覚器系（2）	視覚と聴覚について学ぶ。物の形、色、位置、動きなど、外界からの情報を光（可視光）によって得るのが視覚である。目の構造・機能・視覚の質について理解を深める。また、耳には聴覚と平衡感覚の受容器がある。耳の構造を学ぶことで、聴覚と平衡感覚について理解を深める。
13	呼吸器系	呼吸の役割は、体内の各細胞に代謝に必要な酸素を供給し、不要となった二酸化炭素を排出することにある。呼吸器系のつくり、呼吸運動、肺の中の気体の量について理解を深める。
14	生殖系	女性生殖器系を中心に、卵巣の構造と機能、排卵の機序などを学ぶ。女性生殖器は女性ホルモンの影響を強く受けることから、排卵とホルモン分泌の関連性についても理解を深める。
15	内分泌系	ホルモン分泌系は内分泌と呼ばれる。ホルモンは生態を維持する上で必要不可欠なものである。ここでは、内分泌腺の分布に加えてホルモンの分泌機構とその調節を学び、理解を深める。

平成30年度

小児保健	小児保健	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	人間の一生の中における小児期は絶えず成長・発達をしている。子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 [授業の目的・ねらい] 小児保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法についての知識を習得し、小児に対する対応を身につける。		
達成目標	1) 子どもの成長・発達について理解する。 2) 子どもにみられる疾病とその対処法について理解する。 3) 子どもの救急処置（起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生法）について理解する。		
受講資格	音楽療法士資格取得希望学生	成績評価 方法	期末試験80点、レポート・課題20点
教科書	山崎知克編著『子どもの保健Ⅰ—心身の発達・健康と安全—』建帛社 2016年 ※資料を随時配布		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：20） 832研究室 木曜日 I 時限（8：50～10：20） 832研究室		
自学自習	予習：教科書・参考文献を読み、当日学修する内容をまとめておくこと（1時間） 復習：更なる課題に対して学修をして、考えを整理しておくこと（1時間）		

－授業内容とスケジュール－

回	項目	授業内容
1	子どもの保育と保健	子どもの成長・発達の把握と評価の意義を理解する。
2	小児の発達、小児の生理機能	小児の運動機能、精神発達について理解する。 子どもの身体計測と評価について理解する。
3	子どもの健康状態の把握	元気な子どもの健康状態の見方、病気の子どもの健康状態の見方について理解する。 子どもの生理機能の測定と評価について理解する。
4	先天異常	受精のメカニズム、遺伝に関する基礎知識と先天代謝異常・染色体異常について理解する。
5	感染する病気	感染症と要因、感染経路と対策、学校保健安全、子どもに多く見られる感染症について理解する。
6	呼吸器系	呼吸器系の構造と役割、呼吸器系の関連疾患について理解する。
7	循環器系、消化器系	循環器系の構造と役割、循環器系の関連疾患について理解する。 消化器系の構造と役割、消化器系の関連疾患について理解する。
8	血液系と腎・泌尿器系	血液系の構造と役割および関連疾患について理解する。 腎・泌尿器系の構造と役割および関連疾患について理解する。
9	内分泌系、アレルギー	ホルモンとは何か、その代表的な疾患について理解する。 アレルギーで起こる病気について理解する。
10	脳・神経系、皮膚の病気	脳・神経系の構造と役割と関連疾患について理解する。 小児に多くみられる皮膚疾患について理解する。
11	骨、関節、筋肉系、眼・耳・鼻・口・歯系	小児の代表的な骨、関節、筋肉系の疾患について理解する。 感覚器系の構造と役割と関連疾患について理解する。
12	精神保健	子どもの心の発達と精神保健、心の健康や行動の問題について理解する。
13	主な症状のメカニズムと対処法①	発熱、脱水、せき、喘鳴の症状のメカニズムと対処法について理解する。
14	主な症状のメカニズムと対処法②	腹痛、下痢、嘔吐、便秘のメカニズムと対処法について理解する。
15	主な症状のメカニズムと対処法③	けいれん、チアノーゼ、熱中症のメカニズムと対処法について理解する。

平成30年度			
科目名	教育心理	対象 単位数 必選	家政学部 人間生活学科 1年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	前期		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。		
受講資格	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 家政学部人間生活学科建築デザインコース2年 家政学部 食物栄養学科 2年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート 30%、定期試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイム	金曜日 2限 8 3 5 3限 8 3 5		
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。学級アセスメントについて理解する。アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。
15	本講義のまとめ	本講義の内容を振り返り、心理学的な知見のまとめを行う。

科目名	音楽療法士実習（施設介護実習、病院実習、社会福祉施設等体験実習を含む）	対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 2年 3単位 選択	
担当教員	南川 肇			
開講期	Ⅲ			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕音楽療法課程科目で学んだことを、医療施設の現場において、体験、実践することで理解を深める。 〔授業全体の内容の概要〕医療機関において、音楽療法を踏まえた実習を行う。			
達成目標	〔授業終了時の達成課題〕実習を体験することによって介護についての理解を深める。			
受講資格	音楽科2年生	成績評価 方法	平常点40%、レポート60%	
教科書	必要に応じて印刷物を配布。			
参考書	なし			
学生への要望	健康に注意して、積極的な姿勢で臨んでほしい。			
オフィスタイム	火曜から金曜日、12:00～12:50 音楽科No.1 研究室			
自学自習	予習：実習内容となる、音楽、介護の準備をしてくること。（1時間） て、改善点等を考慮し、改善に努めること。（1時間）			復習：実習におい

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	実習オリエンテーション	実習に当たる、準備、心構え。
2	福祉施設とは	音楽療法士の主な職場である福祉施設とはなにか、理解を得る。
3	実習におけるコミュニケーション1	指示の受け方、挨拶の仕方、身だしなみ等実習における基本的なコミュニケーションスキルを実習形式で学ぶ。
4	実習におけるコミュニケーション2	日常会話におけるマナーや、会話の展開の仕方等を実習形式で学ぶ。
5	音楽の準備1	介護の相手にあった楽曲を選定し、準備をする
6	音楽の準備2	コードネームによる伴奏付け等の練習、準備をする。
7	高齢者との接し方1〔実習〕	認知症への理解とコミュニケーション技法1〔実習〕
8	高齢者との接し方2〔実習〕	認知症への理解とコミュニケーション技法2〔実習〕
9	高齢者との接し方3〔実習〕	認知症への理解とコミュニケーション技法3〔実習〕
10	高齢者との接し方4〔実習〕	認知症への理解とコミュニケーション技法4〔実習〕
11	介護体験1〔実習〕	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）1〔実習〕
12	介護体験2〔実習〕	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）2〔実習〕
13	介護体験3〔実習〕	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）3〔実習〕
14	介護体験4〔実習〕	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）4〔実習〕
15	介護体験5〔実習〕	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）5〔実習〕
16	音楽を使ったセッション1〔実習〕	セッションの進め方、選曲について。1〔実習〕
17	音楽を使ったセッション2〔実習〕	セッションの進め方、選曲について。2〔実習〕
18	音楽を使ったセッション3〔実習〕	セッションの進め方、選曲について。3〔実習〕
19	音楽を使ったセッション4〔実習〕	セッションの進め方、選曲について。4〔実習〕
20	音楽を使ったセッション5〔実習〕	セッションの進め方、選曲について。5〔実習〕
21	音楽を使ったセッション6〔実習〕	セッションの進め方、選曲について。6〔実習〕
22	実習事後指導	実習において、学んだこと、これからの心構えについて。
23	音楽療法士2種申請について、実習についてまとめ	音楽療法士2種の申請についての説明と、仕事内容をあらためて再認識する。